

春よ来い

参議院議員
客員相談役

藤井基之



手折らるる 人に薫るや 梅の花
(千代女)

加賀の千代女という有名な女性俳人の句です。

二月、梅の花がほころびはじめ、春の訪れを告げてくれます。中国の宋の時代の載益という詩人は、「春在枝頭已十分」(春は庭先の枝の先にぼつりと咲いた梅一輪、それで十分)、と歌いました。福島市の郊外に「花見山公園」という公園があります。春先の蠟梅、紅梅から始まり、杏子、桃、桜と次々に山一面が花で飾られ、「桃源郷」と呼ばれているそうです。昨年三月の東日本大震災から約一年、福島県も震災とそれに伴う原発事故で大きな被害を受けましたが、花見山は、今年も梅の花を皮切りに花が咲き乱れ、被災者の皆

様を癒してくれるでしょう。花見山は山の持ち主の阿部一郎さん(八十六歳)という方が、先代から山を開墾して、こつこつと花木を植えて、今日の姿を作り上げてきたのだそうです。阿部さんは、私有地であるこの花見山を人々に無料で開放しているのだそうです、

梅と日本人の付き合いは古いようです。「邪馬台国」の卑弥呼の話や「魏志倭人伝」に「其木有」との記述があります。この「木」は梅を意味するとい説があるそうです。梅は、ただけでなく、古くから日本人にとって、果実を梅干しにしたり、梅酒や梅酢を作ったり、重要な食品として用いられてきました。

梅は、主成分としてクエン酸を含んでおり酸味が強い。塩と同様、最も古い調味料です。味を調整することを、「い

い塩梅」にするといいますが、これは塩味と酸味をバランスよく調整すること。調理師の皆様にとっては専門用語ともいえます。この日本語、調理だけではなく、広く、物事をバランスよく調整することを言うようになりました。

また、まだ若い青梅の種子には青酸配糖体が含まれているため、未熟な梅を種ごと食べると、体内で青酸(シアニン)が発生、中毒症状を起こし、時には死亡に至るような危険なことになる場合もあります。その反対に、梅酢(梅エキス)は、子供のころよく、食中毒の防止にと、舐めさせられたものです。ところで、梅を燻して真っ黒にした「烏梅」という漢方薬の原料があります。烏梅の効能は、健胃、整腸、駆虫、止血、強心作用などがあるといわれています。

この烏梅、実は、紅染めには不可欠な媒染剤なのだそうです。烏梅に熱湯を注ぎ、その上澄み液を紅花からとった染料と混ぜ合わせると、あの見事な紅色を発色するのだそうです。文化庁が公開している「国指定文化財等データベース」には、この「烏梅製造」技術を、伝統的な工芸技術として収録しています。データベースには、その製造方法が次のように記載されています。

「半夏生【はんげしょう】(七月上旬)の頃自然落下した完熟の梅の実を拾い集め、これを箕【み】の中で水を打ちながら薪【まき】(クヌギ材等)のみを燃焼させてきた純粋な煤【すす】を

梅の実にまぶす。次に土中に掘った穴の中で粉殻【もみがら】を燃焼させ、その上に煤をまぶした梅を並べた簀子【すのこ】を重ね、水で濡らした筵【むしろ】をかけて一昼夜燻【くす】べる。こうして得た生烏梅【なまうばい】を簀子のまま一週間から十日間天日で乾燥させ、さらに筵に広げて十日間ほど乾燥させて、烏梅を完成させる。各工程には、長年の経験と勤が要求される。」

半夏も漢方薬で使われますが、半夏生とは夏至から十一日目、半夏の草が伸びる七月初めから七夕の頃を指し、八十八夜、夏至などとともに季節の節

目をあらわす「雑節」の一つ。ちょうどその頃、梅の実が完熟し、季節は夏。官製データベースの中に、半夏生、箕、薪、筵と、懐かしい言葉が並びます。こんな日本の季節感一杯の、工芸技術がある国。日本に生まれてよかったと感じさせてくれます。

今年辰年、昇竜の年。愛するこの国が大震災から復興し、不景気から脱出し、暖かな春が来るように、政治は一段と頑張らねばなりません。

白雲の 竜をつつむや 梅の花
(嵐雪)

藤井 基之

- 生年月日 昭和 22 年 3 月 16 日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2 回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>
- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条
私の政策の柱は A(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。
高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。
好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」
- 活動報告
参議院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。
- 経歴
昭和 37 年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和 40 年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和 44 年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和 44 年 厚生省入省
平成 9 年 厚生省退官
平成 9 年 財団法人 ヒューマンサイエンス 振興財団 専務理事
平成 12 年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人 日本薬剤師会 常務理事
平成 13 年 参議院議員 (1 期目)
平成 16 年 厚生労働大臣政務官 (平成 16 年 9 月~平成 17 年 11 月)
平成 19 年 日本薬剤師連盟 顧問
平成 22 年 参議院議員 (2 期目)
- その他
慶應義塾大学薬学部 客員教授
昭和大学薬学部 客員教授
東邦大学薬学部 客員教授
新潟薬科大学 客員教授
京都薬科大学 客員教授
近畿大学薬学部 客員教授
千葉大学薬学部 非常勤講師